

沖代地区条里跡 43次調査

集合住宅建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

沖代地区条里跡
43次調査
集合住宅建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

中津市文化財調査報告
第74集

2016
中津市教育委員会

2016
中津市教育委員会

沖代地区条里跡 43次調査

集合住宅建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

2016

中津市教育委員会

序

大分県の最北部に位置する中津市は、国指定名勝那馬溪など緑豊かな自然や城下町の香りを色濃く残す、自然と文化の町として知られています。近年は、自動車関連会社などの進出・稼働を受け工業の町としての新たな側面を見せはじめています。

一方、経済活動の発展・促進は、埋蔵文化財へ影響を与えていることも事実です。平成27年度の試掘・確認・本調査件数は例年になく高水準であり、市道建設や病院建設に伴う多くの本発掘調査を行いました。今後、東九州道などへのアクセス道路、インター周辺の開発等が予想されるため、埋蔵文化財を取り巻く状況の厳しさは続くことが予想されます。しかし、文化財は現代に生きる我々が責任をもって未来へ伝えていかなくてはなりません。

本書はこうした開発の中で、中津市大字上池永における集合住宅建設に先立ち、中津市教育委員会が委託を受け実施した沖代地区条里跡43次調査の発掘調査報告書です。調査により弥生時代の掘立柱建物跡や中世の遺物などが発見され、中津市の歴史を考える上で貴重な調査となりました。

本書が学術研究資料としてはもとより、埋蔵文化財の保護やその理解への一助となりましたら幸いです。

最後に、発掘調査から報告書刊行に至るまでご協力賜りました山本キヨカ様をはじめ、関係各位、及び調査に従事して下さいの方々に対し、深甚から感謝申し上げます。

平成28年3月31日

中津市教育委員会
教育長 廣畑 功

例 言

1. 本書は中津市教育委員会が、2015年度に行った集合住宅（レオパレス21）建設に伴う沖代地区条里跡43次調査の報告書である。
2. 発掘調査費及び報告書刊行までの調査費用は山本キヨカ氏の協力を得た。
3. 確認調査は村上久和（中津市教育委員会）が、本調査は浦井直幸（中津市教育委員会）が担当した。
4. 遺構の実測・撮影、遺物の撮影は浦井が行った。遺物実測・遺構図浄書は、臨時職員の小田くるみ、安倍方恵、岩男純子、衛藤京子、金丸孝子、長倉朱見、古市智子の協力を得た。
5. 現場で用いた座標は世界測地系による。
6. 遺構の表記は下記のとおりである。
SB＝掘立柱建物
7. 図面等記録類は中津市歴史民俗資料館に、出土遺物は旧槻木中学校体育館に保管している。
8. 本書で使用した弥生土器の時期認定は以下の文献による。
大分県立歴史博物館「二千年の鼓動～弥生土器の世界～特別展図録」大分県立歴史博物館2003
9. 本書の執筆・編集は浦井が行った。

目 次

序

例言

第1章	調査の経過	1
	第1節 調査に至る経緯	1
	第2節 調査体制	1
第2章	遺跡の位置と環境	2
	第1節 地理的環境	2
	第2節 歴史的環境	2
第3章	調査の方法と成果	4
	第1節 調査の方法	4
	第2節 調査の成果	4
第4章	総括	8
	写真図版	13
	報告書抄録	15

挿 図 目 次

第1図	中津市内主要遺跡分布図	3
第2図	調査区位置図	4
第3図	遺構配置図	4
第4図	調査区西壁土層図	5
第5図	SB-1平・断面・土層図・出土遺物実測図	6
第6図	調査区西壁出土遺物実測図	7

表 目 次

第1表	遺物観察表	9
-----	-------	---

写真図版目次

写真図版1	調査区全景 調査区西壁 SB-1完掘状況	13
写真図版2	出土遺物	14

第1章 調査の経過

第1節 調査に至る経緯

平成27年9月17日、中津市大字上池永字平ツ丸1283番1外の更地にて集合住宅建設工事が計画され、文化財保護法93条の届出が提出された。予定地は沖代地区条里跡に含まれていることから、確認調査が必要と判断し、9月25日に確認調査を行った。調査の結果、複数のトレンチから柱穴跡が確認されたため、遺構の保存について協議を工事主体者とも行った。しかし、工法の変更は困難となり、本調査を実施するとの結論に至った。10月8日、工事主体者と発掘調査委託契約を締結し、10月14日から10月24日まで本調査を実施した。

調査の結果、弥生時代の遺物が出土する掘立柱建物跡1棟や弥生時代の遺物包含層、中世の遺物などを検出した。

調査終了後、11月24日に報告書作成委託契約を締結し、報告書作成作業を開始した。平成28年3月の本書刊行をもって本業務を完了した。

第2節 調査体制

調査主体	中津市教育委員会		
調査責任者	廣畑 功	(中津市教育委員会教育長)	
調査事務	白木原 忠	(同)	教育次長)
	平原 潤	(同)	文化財課長)
	高崎 章子	(同)	文化財係長兼主任研究員)
	大森 健	(同)	管理係長)
	吉川 奈央	(同)	管理係主任)
	長尾 淳平	(同)	管理係主任)
担 当	浦井 直幸	(同)	文化財係副主任研究員)
	村上 久和	(同)	文化財係嘱託)

第2章 遺跡の位置と環境

第1節 地理的環境

中津市は大分県の最北部に位置する。人口約8万6千人、面積491km²を誇る。北は周防灘に面し、西は福岡県、東は宇佐市、南は玖珠町・日田市と境を接する。英彦山に源を発する一級河川山国川が市内を南から北へ貫流し流域一帯を潤す。上中流域は山々に囲まれた地形で、山国川やその支流により開析された河岸段丘上に集落は営まれる。頼山陽により絶景と称された奇岩・奇勝の多くは名勝那馬溪として国の指定を受ける。下流域は沖積作用による県北最大の平野「沖代平野」と洪積台地「下毛原台地」が広がる。

沖代地区条里跡は、山国川右岸に形成された沖積平野一帯に広がる条里遺跡である。

第2節 歴史的環境

旧石器時代 旧市内の遺跡を概観すると旧石器時代の石器は才木遺跡(35)や法垣遺跡(19)、定留鬼塚遺跡(50)で発見されている。

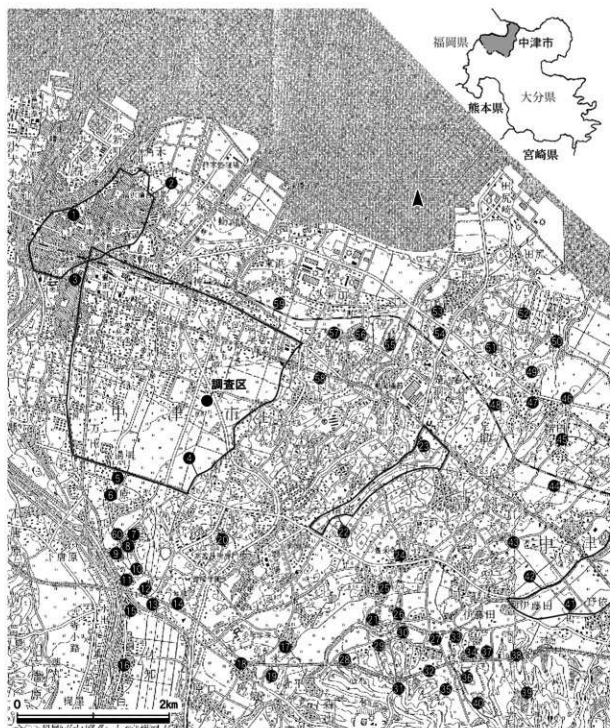
縄文時代 上畑成遺跡(43)で早期の無文土器が検出された。早期末から前期は黒水遺跡(18)で陥し穴が発見された。遺跡数は縄文後期から増大し、植野貝塚やボウガキ遺跡(21)、女体像と見られる土偶が出土した高畑遺跡がある。法垣遺跡は複数の掘立柱建物が発見され注目されている。

弥生時代 前期後葉から中期初頭の上ノ原平原遺跡(13)で貯蔵穴群が確認された。続く中期では二列埋葬の土壇墓・住居跡・溝が福島遺跡(25)で確認され、前期末から後期初頭の集落全域が森山遺跡(28)で検出された。

古墳時代 亀山(亀塚)古墳(58)が挙げられるが、土取り工事により破壊されたため詳細は不明である。その他の墳墓の多くは下毛原台地の西南に造営される。5世紀中ごろには山国川に面する助助野地遺跡(12)で方形墳が造営され、5世紀後半から7世紀前半にかけては上ノ原横穴墓群(11)が展開する。古墳時代後期には三保地域に岩井崎横穴墓群(29)、城山古墳群(34)、城山横穴墓群(33)などが見られる。また、7世紀から9世紀にかけて相原山首遺跡(7)で方墳が造られる。古墳時代後期の集落は諸田遺跡(45)や定留遺跡(47)でまともに見られている。古代には7世紀末に白鳳系の相原廃寺(6)が建立される。また、遅くとも8世紀初頭には沖代平野に条里制(4)が施行されたと考えられ、条里の南限は「勅使街道」と呼ばれる古代官道が走る。8世紀後半には官道南側に下毛郡衛正倉に推定される長者屋敷官衛遺跡(20)が確認された。須恵器や瓦を製作した生産遺跡は、瓦ヶ迫窯跡、草場窯跡(37)、踊ヶ迫窯跡(38)、洞ノ上窯跡(31)などがある。集落遺跡としては古墳時代から10世紀まで続き緑釉陶器や墨書土器が出土した三口遺跡(60)がある。

中世 長久寺の田丸城跡(24)など中世城館が市内各地に築かれる。16世紀末は黒田氏の入封によって中津城(1)が築城される。近年の調査によって、中津城は石垣に高度な構築技法が採用された現存する九州最古の近世城郭であることが判明した。

近世 関ヶ原の合戦後、黒田氏が替わって細川氏が入部し、城・城下町は整備・拡張される。城下の造営は小笠原氏が入部する1632(寛永9)年に完成を見る(2)。1717(享保2)年に奥平氏が入部し、1871(明治4)年の廃藩置県まで城下は奥平氏が統治した。



- | | | | | |
|--------------|--------------|-------------|-------------|--------------|
| 1. 中津城 | 13. 上ノ原平原道跡 | 25. 福島道跡 | 37. 草場竈跡 | 49. 和間貝塚 |
| 2. 中津城下町道跡 | 14. 大池南道跡 | 26. 福島地下式横穴 | 38. 踊ヶ道竈跡 | 50. 定留鬼塚道跡 |
| 3. 豊田小学校校庭道跡 | 15. 佐知久保畑道跡 | 27. 前田道跡 | 39. ホヤ池竈跡 | 51. 是徳道跡 |
| 4. 沖代地区条里跡 | 16. 佐知道跡 | 28. 森山道跡 | 40. 大谷竈跡 | 52. 田尻大道道跡 |
| 5. 市場道跡 | 17. 加来居屋敷道跡 | 29. 岩井崎横穴墓群 | 41. 野依道跡 | 53. 舞手橋東段上道跡 |
| 6. 相原廃寺 | 18. 黒水道跡 | 30. 大丸川流域道跡 | 42. 野依地区条里跡 | 54. 是間道跡 |
| 7. 相原山首道跡 | 19. 法垣道跡 | 31. 洞ノ上竈跡 | 43. 上畑成道跡 | 55. 全徳道跡 |
| 8. 鶴市神社奥山古墳 | 20. 長者屋敷官衙道跡 | 32. 安平道跡 | 44. 諸田南道跡 | 56. ガラヌノ道跡 |
| 9. 坂手隈城跡 | 21. ボウガキ道跡 | 33. 城山横穴墓群 | 45. 諸田道跡 | 57. 合馬道跡 |
| 10. 幣原塚古墳群 | 22. 大悟法地区条里跡 | 34. 城山古墳群 | 46. 天貝川道跡 | 58. 亀山古墳 |
| 11. 上ノ原横穴墓群 | 23. 原道跡 | 35. 才木道跡 | 47. 定留道跡 | 59. 東浜道跡 |
| 12. 勘野野地道跡 | 24. 田丸城跡 | 36. 城山竈跡群 | 48. 定留貝塚 | 60. 三口道跡 |

第1図 中津市内主要遺跡分布図 (S=1/50,000)

第3章 調査の方法と成果

第1節 調査の方法

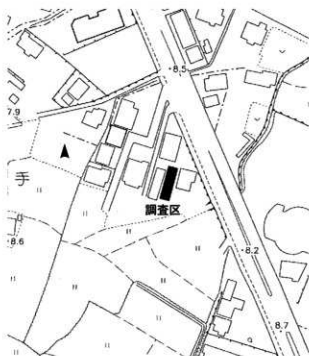
確認調査では重機を使用し遺構の有無を確認した。本調査の表土剥ぎも重機を使用し、遺構の掘削は、柱痕跡が残る柱穴は基本的に半載法を採用した。確認調査及び本調査の表土剥ぎにおいて遺構が確認されなかった調査区北側については、掘削土量を抑える目的から全掘せず一部を未掘とした。

第2節 調査の成果

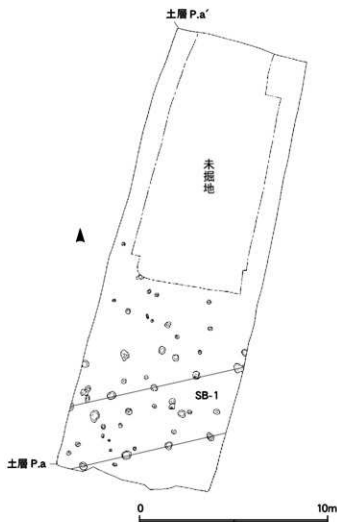
面積約200㎡の調査区を設定した。南側は地表面から60cm下位で遺構検出面（地山）に至る。一方、北側は地表面から130cm下位で地山に至る。調査区の地山は南側の平坦面から調査区中央付近で北側に緩やかに下降後、平坦面を形成している。遺構の殆どは南側平坦面に認められ、北側平坦面からは今回の調査では遺構は未検出であった。南側平坦面の遺構は、柱穴主体で、土坑状の落ち込みも一部に見られた。他は風倒木痕を2基検出した。南側平坦面と北側平坦面の地山上位には遺物包含層の堆積を確認している。

第4図は、調査区西壁の土層を図化したもので、この内確実な遺物包含層は3・5層である。5層から弥生後期を所産とする土器がパンケース半箱程度出土した。層上位(2a～4層)は、平行堆積を呈し、それより下位とは様相を異にする。特に弥生土器が多く出土した5層の堆積は厚く、北端部では50cmを測る。一方、南側では5層は殆ど確認できず、4層が地山と接する状況を呈していた。3層は水田層に見られる鉄分粒が堆積しており、第6図2の中世の鉢が出土している。

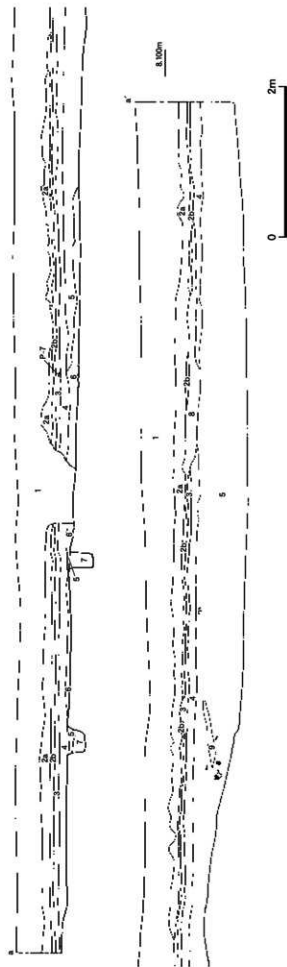
これらのことから調査区全体の地山上に



第2図 調査区位置図 (S=1/12,500)



第3図 遺構配置図 (S=1/200)



1. 茶褐色砂質土 (灰・礫混じりの造成層)

2a. 灰褐色砂質土 (しまりよい、マンガン少量含む、水田層)

2b. 灰褐色砂質土 (しまりよい、鉄分中量、赤色気味、水田赤土層)

3. 暗黄褐色砂質土 (しまりよい、鉄分多量、黄色、水田赤土層か、中世、林口層部 (P-7) 出土)

4. 暗茶褐色砂質土 (しまりよい、茶色粘土を多く含む、性状不明、奈良期の層序か)

5. 黒褐色砂質土 (しまりよい、層上位に鉄分の沈着がみられる、4層より上位の水田による影響か、遺物 (弥生式土器) を含む)

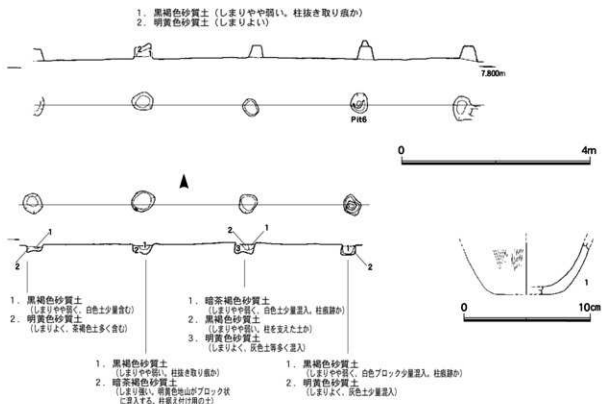
6. 明灰色砂質土 (しまりよい、地山)

7. 暗茶色砂質土 (しまりよい、灰色、白色土混入)

8. 暗黄色砂質土 (しまりよい、水田層か)

9. 黒褐色砂質土 (しまりやや弱い、黄褐色ブロック状に混入)

第4図 調査区西壁土層図 (S-1/50)



第5図 SB-1 平・断面・土層図・出土遺物実測図 (S=1/80, S=1/3)

5層 (弥生後期) がかつて堆積していたが、何らかの事由によりある時期それらがカットされ、その上に2a～4層が堆積したことがわかる。2a～4層は平行堆積を示すことから水田層と考える。水田層形成は3層の出土遺物から中世以降の可能性がある。

以下、図化可能な遺物の出土を見た遺構、遺物を中心に説明する。

遺構と遺物 (第5・6図)

掘立柱建物跡

SB-1 (第5図)

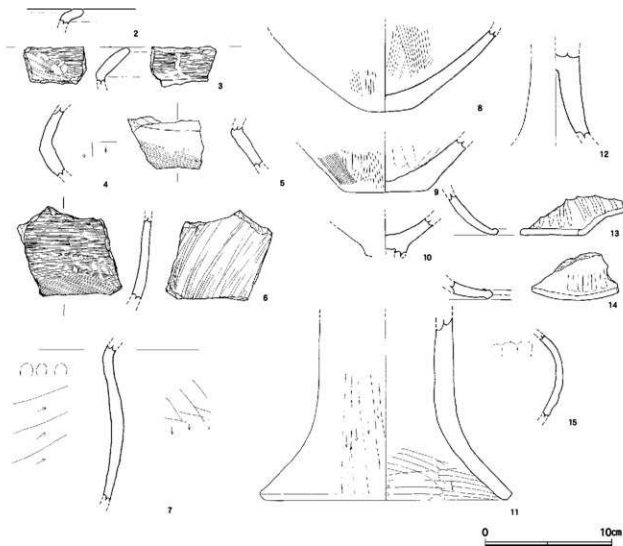
調査区南端に位置する側柱建物である。北辺・南辺共に調査区外に延びており、全形は不明であるが、柱穴間隔などから掘立柱建物跡と判断した。北辺は4間で長さ9.4m、南辺は3間で長さ7.8m、柱穴間隔はいずれも約2.2mを測る。建物方位はN87°Wである。柱抜き取り痕は2基の柱穴に確認でき、抜き取り後に堆積した埋土は西壁5層と同じであった。遺物はpit6より1点出土した。

1は弥生土器底部で鉢か。外面に縦方向ハケ目が認められる。

柱穴埋土、出土遺物から弥生時代の掘立柱建物跡と考える。

西壁出土遺物 (第6図)

2は前述した3層出土遺物。中世の鉢の口縁部であろう。3～15は5層出土遺物。3は甕の口縁



第6図 調査区西壁出土遺物実測図 (S=1/3)

部である。4・5も甕で胴部と口縁部の境。6は胴部片で外面に粗いハケ目が残り、内面は密にハケ目が残る。7は甕の同部片で、外面はヘラケズリ後ハケ目調整を施し最後にナデを行う。煤が付着することから煮沸具として使用されたものであろう。8は甕の底部でやや丸みを帯び、黒斑が見られる。後期初頭か。9は甕の底部で平底である。中期末か。外面に縦方向ハケ目が残り、内面は指ナデ痕が残る。10は甕の底部でやや上げ底気味となる。11は器台である。ヘラにより雑な縦方向ケズリを行う。12は高坏の脚部で器壁が粗く長石が多く混じる。内面はシボリ痕が残る。13・14は高坏の脚端部である。縦方向に丁寧なヘラミガキを施し、胎土は精緻である。15は壺か。胎土は精緻で少量角閃石を含む。

2の瓦質土器を除く遺物の時期から、5層は概ね弥生時代中期末から後期初頭の範疇に収まるものとする。

第4章 総括

弥生時代について

本調査において確認された遺構は掘立柱建物1棟と柱穴群であった。調査区による制限から掘立柱建物の全容は明らかではないものの、1間もしくは2間×4間以上の規模と推定する。身面積30～40㎡と考えられる大型の掘立柱建物である。

周辺を概観すると調査地点から西に1kmの沖代小学校では昭和56年(1981)に弥生中期の水田水路や溜井跡が⁽¹⁾検出され弥生人の足跡などが調査されたという。他地点でも弥生中期の水路などが点的に確認されているが、複数の竪穴式住居などはまとめて発見されていない。一方、洪積台地上では福島遺跡⁽²⁾や上ノ原平原遺跡⁽³⁾で弥生中期の住居や貯蔵穴が検出され、諫山遺跡では中後期の竪穴住居などが調査されている。

今回の調査によって、現段階では弥生期の集落は洪積台地上に多く、沖積平野では散在的に分布する傾向を把握することができた。

層序について

今回の調査では遺構は検出できなかったが、調査区西壁3層より瓦質土器を1点発見した。このことから3層より上位は中世期以降の水田層の可能性がある。4層の時期は不明であるが、弥生期の5層上位に形成されていることから、古墳時代～古代に形成された層位と想定しうる。古代の条里制施行期の層位とすれば、カットを受けたような5層の堆積状況から条里制施行時に凹凸のある地形を平坦に造成し、条里を施行したとの見方も可能である。

推測の域を出ないため今後の周辺の調査に期待したい。

以上、沖代地区条里跡43次調査の発掘調査成果とその意義を述べ、総括とする。

註

1. 村上久和氏ご教示。
2. 中津市教育委員会『福島遺跡』中津市文化財調査報告第43集 2008
3. 中津市教育委員会『上ノ原平原遺跡』中津市文化財調査報告第20集 1998

第1表 遺物観察表

掲載 番号	種別・器種	遺物名	注 量		調整・文様	施成	胎 土	色 調	押印 No	記号 No	備 考
			口径・高さ	底径							
1	弥生土器・ 壺	SB-1 Pit6	(15)		内面・タテ方向のナデ 外面・ハケ目のちナデ 底部・指サエ痕あり	良好	角閃石(0.2ミリ大)多量 白色粒子(0.2ミリ大)多量 長石(0.2ミリ大)多量 赤色粒子(0.5ミリ大)少量	茶褐色	5	2	
2	瓦質土器・ 鉢	西カベ 3層 P-7			内面・ナデ 外面・ナデ	良好	角閃石(1ミリ大)少量 黒色粒子(0.5ミリ大)少量	茶褐色	6	2	
3	弥生土器・ 甕	西カベ 5層			内面・1ミリ幅のヨコ方向のハケ目 外面・1ミリ幅のヨコ方向のハケ目	良好	費母燧粒子多量 黒色粒子(0.5ミリ大)少量	淡茶黄色	6	2	
4	弥生土器・ 甕	西カベ 5層 P-1			内面・ナデ 外面頸部・ヨコナデ 外面胴部・器具によるナデ	良好	費母燧粒子多量 角閃石(0.5~1ミリ大)多量 白色粒子(0.5ミリ大)多量 長石(1ミリ大)多量	暗褐色	6	2	
5	弥生土器・ 甕	西カベ 5層			内面・ハケ目のちナデ 外面・ナデ	良好	白色粒子(0.5ミリ大)少量	淡茶色	6	2	
6	弥生土器・ 甕	西カベ 5層			内面・1ミリ幅の緻密なハケ目 外面・ナデのち粗いハケ目	良好	費母燧粒子多量	淡茶色	6	2	
7	弥生土器・ 甕	西カベ 5層			内面・ヘラクズリのちナデ 外面・ヘラクズリのちハケ目調整のち ナデ	良好	角閃石(0.5ミリ大)多量 白色粒子(0.5ミリ大)多量 長石(0.5ミリ大)多量 黒色粒子(0.5ミリ大)多量	内面・橙色 外面・暗茶褐色	6	2	外面胴部、火による表面 の酸化(黒化)が見られる 煮炊きによるスス付着あ り。底部に指痕残留
8	弥生土器・ 甕	西カベ 5層			内面・不定方向のハケ目 外面・タテ方向のハケ目	良好	白色粒子(0.5ミリ大)多量 角閃石(0.5ミリ大)多量 長石(0.5ミリ大)多量 黒色粒子(0.5ミリ大)少量	茶灰色	6	2	底部は直径4.5cmほどの 不安定な丸底
9	弥生土器・ 甕	西カベ 5層 P-2	/10.5		内面・ハケ目のちナデ 外面・タテ方向ハケ目	良好	長石(1ミリ大)多量 角閃石(1~3ミリ大)少量	茶褐色	6	2	
10	弥生土器・ 甕	西カベ 5層			内面・ナデ 外面・ナデ	良好	赤色粒子(0.5~1ミリ大)多量 白色粒子(0.5ミリ大)多量 赤色粒子(0.5~1ミリ大)少量	灰茶色	6	2	
11	弥生土器・ 器台	西カベ 5層	(20)		内面上部・粗雑なナデ 内面底部・ヘラ状器具によるヨコ方向 のケズリ 外面・ヘラ状器具による縦方向の雑な ケズリ	不良	白色粒子(0.5~2ミリ大)多量 赤色粒子(0.5~1ミリ大)多量 長石(0.5~1ミリ大)多量	茶褐色	6	2	スス付着
12	弥生土器・ 高杯	西カベ 5層			内面・シボリ痕 外面・ナデ	良好	白色粒子(1.5ミリ大)多量 黒色粒子(0.5ミリ大)少量 赤色粒子(0.5ミリ大)少量	淡茶色	6	2	
13	弥生土器・ 高杯	西カベ 5層			内面・ていねいなナデ 外面・ナデのちヘラミガキ	良好	角閃石(0.5ミリ大)微量 長石(0.5ミリ大)微量 白色粒子(0.5~1ミリ大)少量	淡茶色	6	2	
14	弥生土器・ 高杯	西カベ 5層			内面・回転ヨコナデ 外面・回転ヨコナデ	良好	角閃石(0.5ミリ大)少量 費母燧粒子少量 白色粒子(0.5ミリ大)少量 赤色粒子(0.5ミリ大)微量	淡褐色	6	2	
15	弥生土器・ 壺	西カベ 5層			内面・ヨコナデ。口縁部近くに指痕留 痕あり 外面・ヨコナデ。面によるアサエ	良好	白色粒子(0.5ミリ大)少量 角閃石(0.5ミリ大)少量 費母燧粒子少量	暗褐色	6	2	

写 真 图 版



調査区全景（南から）

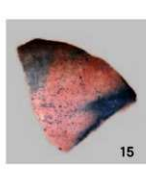
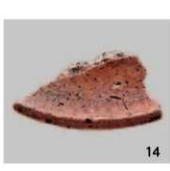
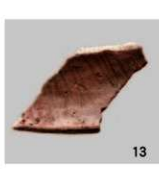
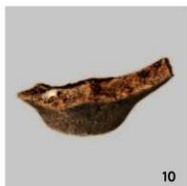
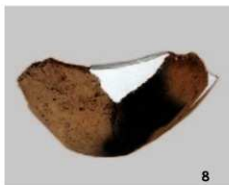
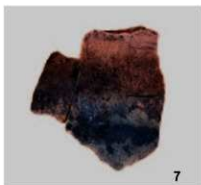
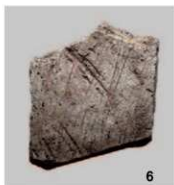


調査区西壁（南から）



SB-1発掘状況（西から）

写真図版 2 出土遺物



報 告 書 抄 録

ふりがな	おだ たい ち く じょう り 跡 じ 549 3							
書 名	沖代地区条里跡43次調査							
副書名	集合住宅建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書							
巻次								
シリーズ名	中津市文化財調査報告							
シリーズ番号	第74集							
編集者名	浦井 直幸							
編集機関	中津市教育委員会							
所在地	〒871-8501 大分県中津市豊田町14番地3 TEL 0979-22-1111							
発行年月日	2016年3月31日							
所収遺跡名	所在地	市町村コード	遺跡番号	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
沖代地区条里跡	大分県中津市 上池永1283番1外	44203	203007	33°	131°	20151014 ～ 20151024	200㎡	集合住宅 建設
				34°	12°			
				59°	36°			
所収遺跡名	種 別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項			
沖代地区条里跡	集落	弥生・中世	掘立柱建物	弥生土器	弥生後期の掘立柱建物跡 検出			
要 約	弥生時代後期の掘立柱建物跡1棟を検出した。また、調査区の土層堆積状況から、沖代地区条里跡の開発を考える貴重な資料を得た。							

沖代地区条里跡
43次調査

集合住宅建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

中津市文化財調査報告 第74集

2016年3月31日

発行 中津市教育委員会
印刷 藤川原田印刷社